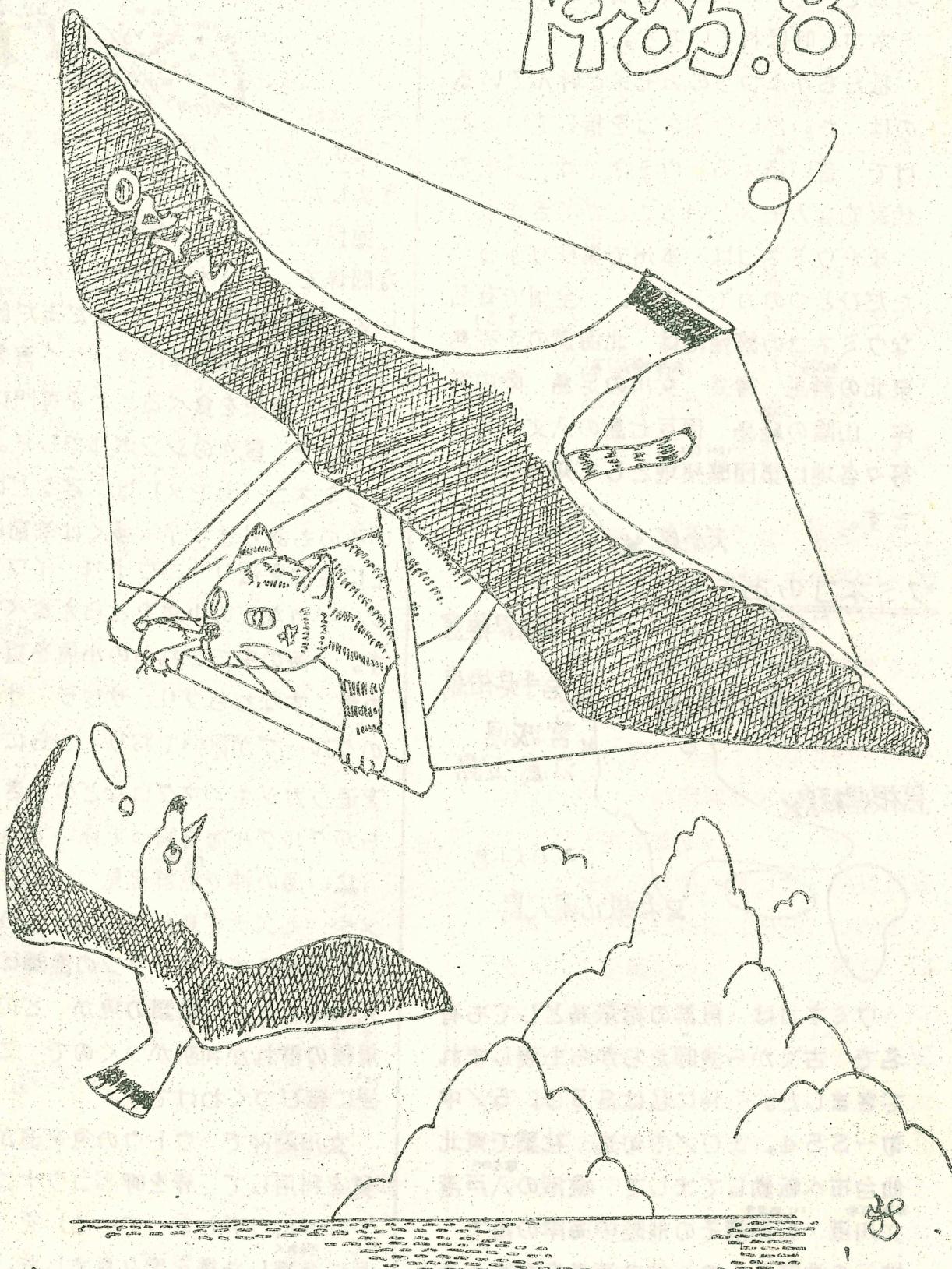


支那文通信 33.  
1985.8



ウミネコに想う

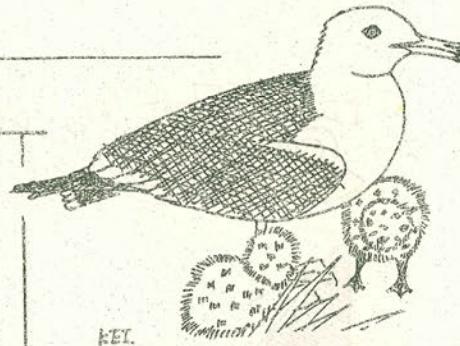
ウミネコは 日本中のどこの海岸でも見られる ポピュラーな鳥です。 中型のカモメで ネコに似た鳴き声から ウミネコと呼ばれています。

私たちがふつうのカモメと呼んでいるのは たいがいウミネコを指しているわけ 言い換えるとウミネコは 日本の代表的なカモメということができます。

またウミネコは 本州で巣作りするただひとつのカモメです。 全国で有名なウミネコの繁殖地は 北海道の手壳島 東北の燕島 橋島 文川の足島 陸中海岸 山陰の経島 伊豆七島の八丈小島等々各地に集団繁殖地として知られています。



ウミネコは 魚群の指示鳥としても有名で 古くから漁師たちからも親しまれていきました。 特に私はS50、5/中旬～S54、10/中旬迄 社業で東北仙台市へ転勤してまして 渔港の八戸港 文川港 石巻港その他陸中海岸の港で地元の漁師さんの 他の海鳥を含めたその性質をうまく利用した漁法を つぶさ



に見ましたし 各所に昔からある話も聞きました。

漁民とカモメは 農家とツバメのような関係で ツバメは最近少なくなったとはいえ 農村地帯にいくとまだまだ健在です。 ツバメは稻作にまつたく害を与えないで 害虫を食べることを専門にする鳥なので 疊作のシンボルでした。

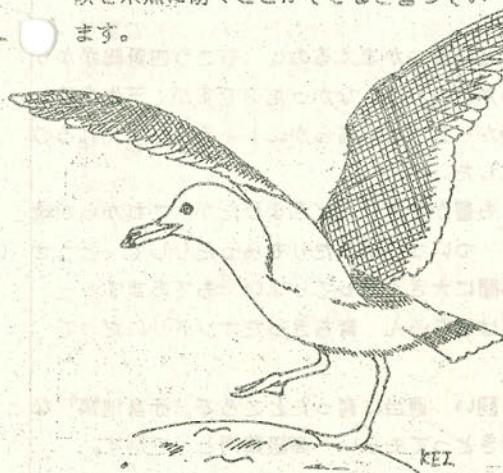
ウミネコ(カモメ)は 港などに年中いるのもありますが 多くは季節的に海上に生活を送り コウナゴ イワシ アジ イカなどの小魚をとらえ食べています。 海の中でこれらの小魚を狙う中型の魚 すなわちブリ サワラ サバなどのグループが泳いでおり さらに これを追うカジキ マグロなどの大きな魚たちがグルグル海を回って泳いでいます。

広い海の沖で魚群を見つけると カメや ミズナギ鳥たちがいっせいに集まって騒ぐので ベテランの漁師はひと目見れば どんな種類の魚か どの程度の規模の群れか判断がつくので これが大漁に繋びつくわけです。

文川港沖で ウトウの魚を追かける性質を利用して 春を呼ぶコウナゴ(地元ではメロウドと言っている)を 一網打尽に漁獲した様を度々見ました。 まさしく漁夫の利でした。

陸中海岸の漁港の漁師なら だれでも知っていることですが 春から夏にかけて 猛烈な濃霧が発生することが しばしばあります。 そんな時 船は手探りで各々の港に入つて来ますが 視界がまったく利かないで はなはだ危険なことがあります。 そのような時 港に近づいたころを見計らつて船のエンジンを止め 浮んだままジッと耳を澄まして 港で騒いでいるウミネコの声が 波を越えて聞こえてくるのです。 そこで自分の現在位置を確認できるのです。

また船乗りが濃霧の時に 勝手の分からぬ港の辺りを通過する際 船にとつて命とりとなる岩礁によく乗り上げることがあります。 これもはなはだ危険です。 そこで熟練の船乗りは ジッと目を瞑らして そばを飛んでいるウミネコの様子を見ます。 ウミネコ(カモメ)が群がって低空や海面近くを飛んでいる時は 岩礁があちこちにあることが多いのです。 それらを総合して判断し 危険を未然に防ぐことができると言っています。



ウミネコのコロニーについて話をします。 私が実際観察した 八戸の無島は(周囲800m足らずの小島) 4万羽も集まるんでいさか過密の観がありますが 特別鳥獣保護区で外敵の心配はないようです。 又 宮城県の足島はウミネコ ウトウ ミズナギドリが同居しています。 ウトウもミズナギドリも穴を掘って巣を作ります。 双方とも わりに 平地又は傾斜地に巣を作り 巣と巣の間は1m以上のゆったりした所もありますが ほとんどがそれ以下で よく自分の卵やヒナを間違えずに抱卵 又はエサを与えることが出来るなと考えます。

ヒナが大きくなるまでは 親鳥たちは巣を守るのと エサを運んで来ると交替でやります。 エサは親鳥が ウのようないつたん飲み込んで持つて来ます。

ウミネコは 鳥の中でもヒナの成長が早く それに飛べるようになるのも早いのは コロニーの環境のせいではないだろうかと考えます。

又 宮城県の足島へ渡つて 繁殖調査の御手伝いをした時に (勿論 つかまえて測定し 足輪をつける等の) 何百 何千のフジの爆弾に見舞われ(なかなかにおいがとれないばかりか 生地の色が変色する) おまけに 命から二番目に大切な愛用のカメラも被害にあって ほうほうのていで逃げ出したことなど 今さらながら鳥達のコロニー防備の強さに感心させられています。

笠川 審久雄

## 保護区のウミネコ…

保護区でのウミネコの初認は6月上旬から中旬 そして終認が11月下旬から12月上旬にかけてです。

ウミネコのコロニーでの繁殖時期は3月上旬から8月下旬ですので まだ繁殖できない若鳥か 何らかの理由で繁殖できなかった成鳥が保護区で夏を過すようです。

8月に入ると繁殖を終えた成鳥がそろそろ南下して東京湾にやってきます。

台風の時などは保護区の中に3千羽以上集まることもあります。

10月も末になると その数もだんだんと減り 11月の末にはすっかりセグロカモメと交替してしまいます。

冬は繁殖地から南下して日本中の海に散らばることですが なぜか東京湾では姿が見られないふうに思います。 東京と千葉ではほとんど見られないので 横浜はどうでしょうか。 御存知の方がいましたらお教え下さい。 銚子まで行けば 他のカモメ類に混じって漁船に群がるウミネコが嫌というほど、 るのですが……。

話：観察舎／蓮屋純子 文：東馨子

笹川さんからは 原稿に添えてウミネコのコロニーや卵などの写真も ご提供いただいたのですが 印刷などの都合上 残念ながら掲載することができませんでした。 特にウミネコの乱舞するコロニーの写真は素晴らしいものでしたのに残念です。

笹川さん 本当にありがとうございました。

(編集部 東)

## 鶏禍“報告”…続ヒヨコを食わないで～蓮屋純子～

今年も次々に鶏が捨てられています。

先日もすぐ裏のお宅に居すわったおんどりをつかまえるのに むこう四軒総がかりの大さわぎ。 この鶏は小さい子を追いかけたりはしなかったのですが 芝生を荒したり草花をつづいたり 何より朝の4時から耳もとで高らかにトキを告げてくれるのにヘキエキということで大捕獲となりました。

“ヒヨコを飼わないで”と行德新聞にも書かせていただきましたが これからが緑日のシーズン。 愛くるしさにつられて ついつい買ったりもらったりして どうせ死ぬからとタ力をくくっていると 見る間に大きくなってしまい もてあます……

誰にもあります。 ヒヨコはもちろん 育ちきったオンドリにだって何の罪もないのですが……。

養鶏用に広いかこいを作つて まとめ飼い 適当に育つたところで“赤身地鶏”などというふれこみで 生協かどこかに引きとつてもらい 高級鶏肉として卸す。 なんてこと 誰かどこかでやってくれないものかなあ。

## はすヒー 一何時までも サギの飛ぶ行徳に一

今ある湿地を保全し なお増やそう

先月行なわれた サギ山の観察会では ダイサギ コサギ ゴイサギの愛らしいヒナを見る事ができました。 しかし年々その数が減っているようです。（ダイサギ50羽 コサギ100羽 ゴイサギ150羽くらい。）

優雅に飛ぶシラサギ（おもにダイサギ ゴサギ）は 古来から日本の風土（稻作文化）とともに生き続けてきた野鳥でしたが 今や首都圏においては幻となりつつあります。

首都圏で最大であった野田のサギ山（埼玉県一天然記念物）は昭和40年代に消滅し 昭和50年代初めには 行德新浜のサギ山のサギが激減し このままでは消滅してしまいそうです。

行徳（宮内府鷺場）のサギ山では昭和40年代の初めまで 数万羽が営巣していてサギ山全体が真白く見えるほどでした。 減少の最大の要因は 湿田 湿地の埋立てによると思われます。 湿田が畑に変わり 市街化地域の湿地は埋立てられ 宅地や駐車場に変つてしまい 湿田 湿地の面積は当時の100分の1になってしまいました。

サギのエサは ザリガニ ドジョウ モロコなど動物質のエサで 湿地の減少により非常に少なくなってしまいました。

このような状態が続いていけばシラサギに代表される水鳥は ほとんど見られなくなってしまう 幻のシラサギにしないためにも 水鳥の生息地である湿地を残し 失った湿地を再度 造りだしていきましょう。

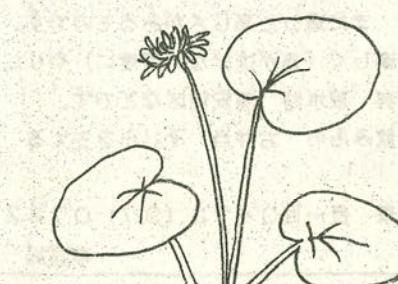
ハス田やアシ原が残る妙典地区も 市街化地域に編入されることが決まりました。（6月一市報）

すばらしいハスの花が 行徳でみられるのもあと数年かもしれません。

…ぜひ大きな湿地やハス田を持つ 親水性の公園をこの地に造つてほしいものです。（過日行なわれた公聴会では 考慮したいとの返事がありました。）

8月の観察会では 美しい花をつけたハスや繁殖を終えたシギ 子ドリにあえますヨ。 現地を見て 湿地の保護について考え 行動していきましょう。

これからも 保護区の保全等々で御協力をお願い致します。 田久保 晴孝



# サギ山見学会感想文

6月23日のサギ山見学会ではお世話になりました。ありがとうございました。

いつもは観察倉から高く茂ったささ竹に包まれて何も見えませんがいかにも鳥のねぐらがありそうな様子を想像していました。

それで門の所で待つ間ドキドキしていました。蓮尾様の案内で中に入り砂利道を歩いて行くと回りに大きな池があり、その向こうの小島の上にダイサギが数羽美しい白い姿を休ませているのが見えました。雨にぬれた濃緑の森の上にくつきりと美しい白さをかがやかしてすくと止まる姿に夕鶴の話が浮んできました。

鳥の羽の美しさは本当にその羽で布を織るという民話の起る必然性を持っているなど初めて感じました。

園内は自然をそのままに残してあってとても静かで気持ちよく土の上をふみしめ木々の深さに時折空を横切るジェット機の音がなければ都会にいることを忘れさせるほどでした。ホー

## カウントに参加してみましたか…

8月の声を聞くと自然界はもうすでに秋です。アキアカネが飛びシギやチドリが北の繁殖地から南の越冬地への旅の途中私たちの目を楽しませてくれます。

友の会では年3回行庵周辺のカウントを行ってきました。皆さんも一度参加してみませんか鳥を数の面から見るというのもまた違った楽しさがあるものです。

今回は9月15日(日)皆でわいわい楽しく(鳥が逃げない程度に)やりたいと思います。場所は保護区原木周辺妙典放水路浦安地区などです。

必要なのは双眼鏡と鳥を数えるための指 飲みもの お弁当 それらを支えるちょっと丈夫なアソコだけです。

参加してみたいと思ふ方は友の会の東良一までお問い合わせ下さい。

ホケキョとウクイスが気持ち良さそうにしているしキジバトも憩っている。

水際にいるチドリやバンを双眼鏡でのぞいてみると「キヨンキヨンキヨンキュンキュン」と甲高い声が空をかけていったその水鳥を追って水辺に降りるのを見てみるときれいな白い体に黒い背スマートな足。セイタカシギと教わる。

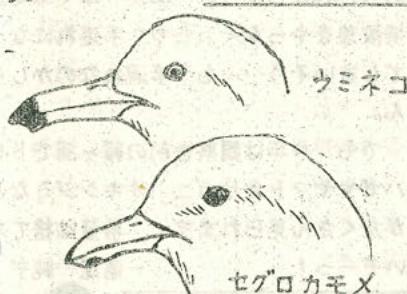
丘にまわってみると林の中ほどにコサギの舞うのが観られた。その近くに巣がありヒナが顔を出していた。コサギの家族も真白な羽を輝かせて住んでいるのがうれしかった。

ここは鳥たちのいえ私たちにとっても楽しい所です。こんな風に自然を自然らしく大事にした場所が多く出来たら良いのになあとよくよく感じました。本当に気持ちのよい所へ案内して下さってどうもありがとうございました。

また東京の方から見えたお孫さん連れの方ともお話し出来て楽しかったです。 横井はるみ

## 一野鳥紹介録

○ウミネコ—8月肌にからみつく熱い風揺らめく葦の波雪と戯れるウミネコ。今回は夏の白い悪戯っ子達について。ウミネコ漢字では「海猫」。あの猫のようなにぎやかな鳴声からこう呼ばれてています。英名は「Black Tailed Gull」このGullというのもやはりカモメ類の鳴き声からきています。学名は「Larus crassirostris」属名のLarusはラテン語のlarus(カモメの一般名)が語源です。種小名のcrassirostrisはラテン語のcrassi-(厚い太い)+rostris(クチバシ)から成っています。



ウミネコは日本近海に多く分布していて青森県の燕島などは繁殖地として天然記念物に指定されています。また宮城県の松島湾では湾内の遊覧船についてまわり観光客から餌をもらったりしています。カモメの仲間はあまり人相…?が良くありませんが晴れた日青空の中に吸い込まれていくように飛翔している彼等の姿は秋の渡りが少しずつ始まっていることを教えてくれます。

○コムクドリー皆さんご存知でしたか暑い暑いと騒いでも夏は本当に2ヶ月程しかないです。夏には日本人は大民族移動をやらかしますが鳥たちも来たるべき冬に備えて渡りを開始します。フィリピンなどで冬を過ごし日本で繁殖しているコムクドリももうじき渡り始めるでしょう。

コムクドリー漢字では「小椋鳥」。『椋鳥』というのはニレ科の落葉高木「ムクノキ」の実を好んで食べる所以こう呼ばれるそうです。英名は「Red



ムクドリ(オズ) Cheeked Myna 雄の頬が濃い赤褐色をしているので Red Cheeked(赤い頬をした) Myna(ムクドリ)と呼ばれています。

学名は「sturnus philippensis」属名のSturnusはラテン語のsturnus(ムクドリ)が語源です。種小名のphilippensisはラテン語で(フィリピン産の)という意味です。

秋の渡りのころは意外な場所で意外な鳥に出会えます。御獵場の上を飛びまわるムクドリの群の中にコムクドリを見つけたり海岸の公園で旅立っていく小鳥を見送るのもいいものです。

## =鳥の国から=

6月はヒナの月 といつても 今年はどうもぱっとしない状況。観察舎前の水路では(あ 丸浜バードリバーって名になったんだつけ)一向にヒナの姿を見ません。猫さん犬さんの暗躍によるものでしょうか。欠真間三角や鈴ヶ浦ではパン カルガモの家族を何組か見ています。

ヨシゴイの姿 ほとんどなし(7月3日に雌一羽が歩いていた。)タマシギヒクイナ一向に聞かれず。オオヨシキリ例年より少ないセッカヒバリも同じ状況。

サギは悲惨なほど少ない! 6月23日の記録ではシラサギ類(ダイサギコサギ)は1番程度しか巣をつくっておらず ベストシーズンというのに 観察舎から10羽以上シラサギ類が見られた日はほとんどなし。エサ場となる湿地や干潟の消失とともに 新浜鶴場のコロニーはまさに消滅寸前。あと3年もつでしょうか。



## 雨は稀 硫酸?

台風がくる日(6月30日) ざんざん降りの雨水をためてPHを測ったら何と5.0(中性は7.0)。いいかげん降った後でもこんな酸性雨。本来晴天続きの後降った最初の雨が最も酸性にかたむくとのことです。6月中ずっと雨続きみたいな状態でしたのに。

多少とも順調なのはキジで 何組も家族が見られました。母親だけに育児がまかされるカルガモと違って キジは派手な雄もちゃんとヒナの面倒をみています。6月25日には 何と13羽ものヒナを連れた一家を見ました。雨の中 11羽までのヒナは母キジの羽にもぐりこんでいました。そろぞろ出てきた様子のおかしかったこと。

セイタカシギ 今年も無事に巣立ちました。鶴場内で3つがいが巣をつく。1巣4羽だけが育ちましたが 6月30日の台風以来 姿を消したそうです。もう飛べるようになっていたので 移動したのでしょうか。

ああ、とにかく鳥が少ない! ともかくおちこむばかり。早く早く早く環境改善をやらなくっちゃ 手遅れになってしまいそう……もう手遅れなのかしらん。

でも 今年は観察舎前の鈴ヶ浦でトビハゼやヤマトオサガニ オキシジミなどがたくさん見られます。希望は捨てかいぞーっ!



新淡水池のPHがいつまでたっても4.4というのも当然ですね。

車の排気ガスのせいいか 工場群のせいか知りたいものです。蓮尾 純子

## -スズガモ群団通行止め?-

鳥の保護区などというものは まあ次から次へと色々なことがあるもので……

6月16日(日)のこと 観察舎正面の三菱電機倉庫のまうしろに よつさりと鉄塔が出現しました。下半分が組立てられているのは土曜日に見えていたのですが 16日の朝には半分だったのが見る見るうちに高くなり 夕方には60m近くの高さで組立完了。

翌月曜 今度は300mほど千葉よりの京葉線塩浜駅予定地の近くに次の鉄塔が立上りはじめ さあたいへんと大あわて 鉄塔というのは 言うまでもなく高圧線を渡すためのもの 完成のあかつきには 保護区のどまん前 スズガモ群団が朝晩飛ぶルートを完全にふさぐ形で電線が張られてしまうというわけです。

工事現場にとんで行って話をうかがったところ 7月10日には電線を張り終えるとのこと。京葉線の複々線予定地に 浦安市美浜から市川市千鳥町まで約2km 高さ50~58mの6基の鉄塔がたてられ 6万ボルトの送電線ができる予定だそうです。

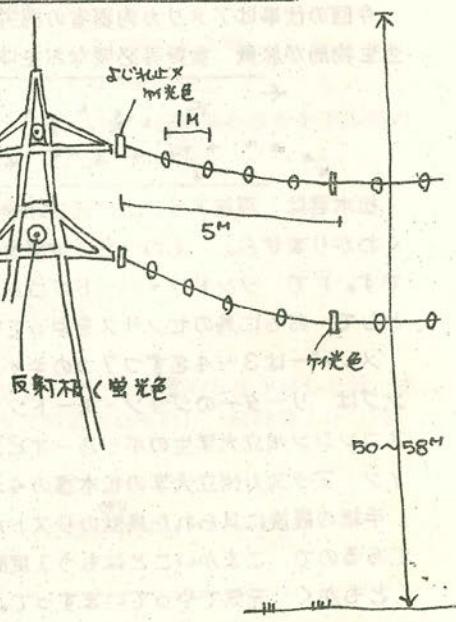
“ぎゃあーっ”(と絶叫!)

どるものもとりあえず 東京電力(習志野営業所)と千葉県自然保護課に連絡し 何とか対策をこうじていただきたいとお願いいたしました。幸い東電は積極的に対処してくださり 我孫子の山階鳥類研究所などにも出向いて協議された結果 送電線の一本一本に約1m間隔で輪をはめ 空中にぼちぼちが出るように

(蓮尾 純子)

して電線を目立たせるほか 5mに一連の割合で蛍光色の黄色い輪をつけ よじれどめの金具もその色に塗る また鉄塔にも反射板をつける等の策をとられたことになりました。かなりの経費をかけて 鳥のために電線が見えやすくしてくださるわけで ありがたいことですが……さて 今冬のスズガモはどうなることでしょう。何とか例年のような大群が入ってきてほしいし 何百 何千羽という犠牲(電線衝突事故)が出るのは避けたいしー目印対策が効を奏することをただひたすら祈っています。

7月7日現在 電線の仮張(?)終了。きちんと張り終えてから 目印用の輪を1つ1つ人力ではめることでした。



## すずがも通信

**アラスカ便り…** 松木 譲一  
4月20日 今週の月曜と木曜に統けて 北極圏国立野生生物保護区と、ユーコン川流域国立野生生物保護区からボランティアの声がかかりました。

北極圏ではシギ・チドリ類と小鳥のセンサス。ユーコン川流域ではガンカモのセンサスのボランティアをさがしていて 僕は何といつてもシギ・チドリ類のセンサスができる北極圏に行くことにしました。というわけで 今年の夏は北極圏国立野生生物保護区のツンドラで 繁殖するシギ・チドリと小鳥の調査助手をすることになりました。

“いいでしょ～っ。”  
まだ今学期が3週間程残っているといふのに 心は早くも北極圏に飛んでいってしまい 勉強がはからずく苦しんでいます。

今回の仕事はアメリカ内務省の漁労野生生物局が旅費・食費等必要なお金は全



松木君は 現在アラスカの国立北極圏野生生物保護区のカクトピク (どこなのかよくわかりません。そのうちに地図を送ってくれるそうなので それまでのお楽しみです。) で ツンドラ・バードプロジェクトという調査隊の24名のメンバーの一人として おもに鳥のセンサスをやっています。

メンバーは3~4名ずつ7つのキャンプにわかれ 松木君のいるナクビラク キャンプは リーダーのジョン・モートン (バージニア工科大学の大学院生) 以下、ウィスコンシン州立大学生のポール・オビング フロリダ州立大学哲学教授のボブ・ロフイン アラスカ州立大学の松木謙の4名。

手紙の最後に見られた鳥獣のリストがずらっと挙げてあって 末尾に公表不可としてあるので こまかいことはもう一度問い合わせてから掲載したいと思います。  
ともかく 元気でやっていますって。

**「丸浜バードリバー」に決定!**

愛鳥週間から公募していた観察舎前の水路の愛称について 114名の投票をいたしました。その中で最も投票の多かった“バードリバー”(18票)を愛称として採用し、かつての地名であった「丸浜」を冠して“丸浜バードリバー”と呼ぶことにいたしました。ご協力ありがとうございました。

“丸浜”というのは 現在の下水処理場から福栄4丁目のかもめ自治会一帯をすべて含んでいた広大な養魚場の名です。1枚が100×200m位の大きな池が10枚以上もあり 池を区切る土堤はひとかえもある松の並木で それは静かなきれいな場所でした。オオバンやカイツブリがそこそこに巣を作り 冬はカモがたくさん入って キクイタダキやイスカの姿も見られたものです。オオコノハズクが巣をかけ カワセミもいました。

明治のころ 現在の新浜鴨場がまだ アシのはえた壊性湿地だったころ 丸浜は塩田として利用されていたようです。現在の水路は この丸浜養魚場の横を通って沖に出るみお筋のなごりにあたります。そこで“丸浜”的な名を残そうということになりました。なお 得票の多かったものは下記のものです。

1.バードリバー (18票) 2.クリーンリバー (11票) 3.千鳥水路 (11票)  
4.白鳥水路 (10票) 5.スワローリバー (6票) 6.やすらぎ川 (6票)

7.カワセミ水路 (5票) 8.カモメ水路 (5票) 9.陽だまり水路 (5票)

上位入賞者にはささやかな賞品を 又 投票された方の中から抽選で10名様にステッカーをお送り致しました。

**(夏休み工作教室)**

☆タマゴ アート講習会 8月11日 (日) 午前10時~12時

講師 藍沢久雄氏 (アトリエ・チュインガム) 小学校4年生以上

用意するもの: 水彩絵具セット できるだけ細い絵筆 (面相筆やプラモデル用の細筆) わりばし1本 ぼろ布 新聞紙1枚 材料費200円

申し込み: 観察舎 運尾まで (8月4日締切)

卵の殻に鳥の絵を書いて かわいらしい置物を作りましょう。

☆マスコット講習会 8月17日 (土) 形づくり

24日 (土) 着色 仕上

どちらも午後1時半~3時半 講師 運尾純子

用意するもの: 17日 竹グシ 広告やカレンダーなど裏のツルツルした紙 水入れ (プリンカップのようなもの) 材料費100円。

24日 水彩絵具セット

申し込み: 観察舎 運尾まで

好評の鳥のマスコット 石粘土で作るので 小さなお子さんでもできます。

ご家族で挑戦されてはいかが。

# 行事案内 誰でも自由に参加できます

## ☆定例新浜探鳥会（毎月第2日曜日）

8月11日 9月8日 10月13日

集合 東西線行徳駅前 午前10時

解散 行徳野鳥観察舎 午後3時ごろ

担当 田久保晴孝 東良一

持物 昼食 飲物 帽子 バス代

(大人190円 小人100円)

暑い盛りですが 鳥の世界では秋の渡りが始まっています 蓮田や放水路で思いがけぬシギの姿にお目にかかるかも知れません 午後はバスで観察舎へ。

帽子 水筒はお忘れなく。

## ☆定例園内観察会（毎月第1, 3日曜）

8月4 18日 (集合午後3時)

9月1 15日 (" 午後1時半)

本土の中をひとまわり。約2時間のうち面白いのはやっぱり百合ヶ浜。カニやトビハゼにこんにちわ。そうだ チゴガニのダンスは9月に入ると下火になるのにお気付きでしたか？

観察舎前集合。8月は午後3時 お間違いなきよう。帽子をお忘れなく。

へんしゅうこうきめ

ひいらいた ひいらいた れんげの花が ひいらいた、ひいらいたと思ったら  
いつのまにかつぼんだ。れんげ『三蓮(みよし)』や 紫雲(みゆうでん)の蓮か・みごとな花を  
さかせています。(しかし来年には 区かく事業かはじます!! ご意見・アドバイスお寄せ  
ください) 連絡するって…ごめんなさい。夏に暑いし、原稿用紙たりは悪いし…などと他人のセイ  
にしてはいけません…みんな私が悪いんです。(もうひらきはおりの心境) 連

すずがも通信 № 33 1985年 8月 日発行

振替 仙台2-6129 行徳野鳥観察舎友の会発行 年会費1000円

発行人	東 良一	
事務局	鈴木 裕子	
編集人	田久保 晴孝	

行徳野鳥観察舎〒272-01市川市福栄4-22-1280473 (97) 9046